



県立広島大学 Prefectural University of Hiroshima

# 地域連携センター報

Vol. **8**

COMMUNITY LIAISON CENTER

平成21年3月1日発行

県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号 電話082-251-9534 E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

## 協定自治体との初の意見交換会開催

12月1日、初の試みとして、本学広島キャンパスの会議室にて、包括的連携協力協定を締結している自治体と、今後の連携事業のあり方等について協議する機会をもちました。センターからは、中谷隆地域連携センター長、加藤秀夫、三好康彦、大塚彰の各キャンパスの地域連携センター長が出席し、事務局からは津浦実事務局長、渡部隆晴経営企画室長及び高橋一男事業調整監が出席しました。自治体（庄原市、三原市、廿日市市、安芸高田市、世羅町）からは企画や政策に関わる部局の担当課長等が出席されました。



この協議で、本学との連携において各自治体が解決を期待している地域課題がいくつか明らかになりました。共通の課題としては、高齢化・人口減少のなかでの市町村合併に伴う新たなコミュニティづくりの課題、加えて、6次産業、地産地消・地食、福祉や健康増進の課題などが挙げられました。

また、「地域に開かれた大学」とは言いながらも、「地域住民から見ると、まだまだ大学は敷居が高い。どのようにコミュニケーションをとったらよいのか」といった戸惑いも表明されました。庄原市や三原市のように市内にキャンパスが存在する場合と異なり、世羅町、廿日市市、安芸高田市においては、学生の地域活動への参加といったこと一つとってみても、難しい面があるとのことでした。地域と大学とのコミュニケーションの問題は、連携事業のマッチングや学生の地域活動への参加というテーマも含めて、今後、さらに学内においても自治体内部においても総合的に検討を要する課題であることが分かりました。

その中で、自治体側から、大学にやってもらうという姿勢でなく、自治体として何ができるかという姿勢が連携を実りあるものにするという意見が出されました。センター側からは、地域連携センターが拠点となって情報ネットワークを形成する旨の提案がありました。また、事務局側からも、最後までしっかり地域の面倒をみて、成果をしっかりと出してもらうようサポートするという決意が表明されました。

最後に、「地域戦略協働プロジェクト事業」と「地域課題解決研究（重点研究事業）」の成果報告と活用の仕方について、協定自治体と共同で、広報と実施にあたることなどが申し合わされ、次年度以降もこの会を恒例とすることで合意し、閉会しました。

# 庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

## 産学連携

### 広島みどり信用金庫と連携・協力協定締結

12月9日、広島みどり信用金庫（以下、みどり信金）と「連携・協力に関する協定」を締結しました。調印式は、みどり信金の森信正敏理事長、本学の赤岡功学長など双方十数名の出席のもと、庄原グランドホテルで実施されました。みどり信金との協定締結によって、本学は広島県内の全信金と連携体制を取ることで、本学のシーズを県内の企業に提供する環境をさらに整えることができました。

今後、みどり信金と協力して、

- ① 中小企業等の活性化のための相談会開催
- ② 中小企業経営セミナー開催
- ③ 農商工連携に関する企画協力
- ④ コミュニティビジネスのサポート事業
- ⑤ 産学連携講座等の開催

などに力点をおいて連携活動を行っていく予定です。

20年度はさっそく、SBC（広島みどり信用金庫若手経営者の会）の21年度事業計画への協力を行う予定です。



## 学術講演会

### 限界集落と地域おこし

11月17日、庄原キャンパス大講義室において、徳野貞雄熊本大学文学部教授を講師に迎え、「限界集落と地域おこし」という題目で講演会を開催しました。

徳野教授は、かつて広島県立大学に在籍されていた関係で、広島県の中山間地域の困難な状況についても精通されています。

講演の内容は、人と人とのつながりは容易には崩壊しないこと、統計上限界集落と言われる集落につ

いても、個別の事情をよくみれば、決してすべてが限界であるとは言えないこと、特定の土地に住み続ける条件はさまざまに維持されているのだから、そこに注目すれば見かけ上の限界集落であっても、もっと活き活きした居住環境として見直すことができるだろう、という主旨でした。農村社会学の観点からの講演は、参加者93名の常識を覆す内容でした。地域住民からの質問もあり、講演会終了後も学生と話をしてくださるなど、活気ある学術講演会となりました。

## 公開講座

### 県立広島大学市民公開講座(後期)

#### 「温故知新Ⅱ」－見つけなおす庄原市の宝－

本講座は庄原市教育委員会との共催によるもので、本学の前身である広島県立大学時代から続くものです。今回の講座では、その原点に戻り、庄原市の生活を大学の知恵から問い直し、活力ある庄原市を目指す講座を実施しました。10月29日～11月25日の5回の講座を、延べ141人の市民が受講しました。

現在、中山間地域では人口の減少、産業の衰退が起きていますが、それらの認識を批判的に捉える視点、新たな展開の手がかりが各講義のなかで展開され、地域を、そして、地域の資源を自らの生活と結びつけて再考する重要性と必要性を痛感する内容でした。

今回は地域と大学の連携を深めるために、初めて本学の学術講演会を第4回の講座として実施しました。市民、学生、教職員と一緒に講師の話を楽しみました。

月/日	テ ー マ	講 師
10/29	中山間地域の商品づくりと販路拡大	堀田 学
11/7	食と農を考える －機能性からみた地域特産物の今後	武藤 徳男
11/11	地下資源文明から地上資源文明へ －生物資源の持続力	藤田 泉
11/17	限界集落と地域おこし	熊本大学 徳野 貞雄
11/25	地域と歴史	銭廣 雅之

## 国際交流

### インドネシアからの留学生受け入れ

現在、本学が学術交流協定を締結している大学は、本学の前身である広島県立大学が平成7年5月16日に、四川大学(中国)と締結して以来、10校となりました(部局間協定を含む)。インドネシアのアンドラス大学(Andalas University)からは、協定締結により、

本年度より、大学院総合学術研究科生命システム科学専攻博士課程後期に女子留学生2名を受け入れています。彼女達は、それぞれ、食品の機能性評価、バイオエタノール製造技術開発などの専門の研究を行いながら、日本語や庄原市の文化も積極的に学んでいます。

## 研究紹介

### 食品,化粧品,医薬品における高機能性物質の開発

生命環境学部生命科学科 准教授 田井章博



我々の健康維持のためには、薬による疾病の治療だけでなく食品機能による疾病の改善・治療補助が可能ではないか、また、食品を用いることにより治療から予防へと展開できるのではないかと考えられます。そこで、健康増進に寄与する食品由来成分の解析とそれら成分の改変による高効率な機能を付加した食品、化粧品、医薬品成分の開発に関する研究を行っています。

これまでの主な研究内容は、ビタミンC誘導体の開発研究、ルイボス茶やアガリクスの免疫賦活作用に関する研究、食品成分の分析法に関する研究です。ビタミンCは免疫増強、抗コレステロール作用、抗アレルギー作用、抗動脈硬化作用など多様な生理作用を示すことから興味を持ち、今では私の中心的研究対象となっています。

ビタミンCは非常に壊れ易い物質です。その壊れ易さを解消し、安全で安定なビタミンC誘導体(アスコルビン酸2-グルコシド)が開発され、現在化粧品成分、栄養機能食品成分として利用されています。このビタミンC誘導体を効果的に体内で作用させるために改良した親油性安定型ビタミンC誘導体(6-Acyl-AA-2G)の開発に成功しています。6-Acyl-AA-2Gは、皮膚組織への浸透性(ヒト皮膚再構築モデル)、腸管からの吸収性(ラット)が優れたものとなっており、生体内で酵素的に加水分解され、アスコルビン酸となり、ビタミンCの生理・薬理作用を発揮することを明らかにしています。今後、6-Acyl-AA-2Gが含まれた商品が開発されることを期待しています。

### スポーツ科学における行動動作の定量化

生命環境学部環境科学科 准教授 楠堀誠司



平成20年度から庄原キャンパスに保健体育領域の教員として着任しました。

これまでは、スポーツ科学の中でも自然科学系の研究に従事してきました。主な手法は、ビデオカメラを2台以上使って人の動きを3次元的に分析する手法で、これをゲーム分析にも応用しています。日本ソフトテニス連盟の委員を務めていることもあり、ソフトテニスに関する研究を主に行ってきました。ゲームあるいはゲームに近似した環境下でのプレイヤーの動き、あるいは、単に現象を記述するのではなく、ゲームそのものを数値化して分析を行い、新たな知見を得ることを目指しています。

また、プレイヤーはゲーム中に視覚情報を利用していますが、どのように利用し、結果どのように行動につながるのか、こういったことも研究しています。

また、もともと屋外での活動が好きだったこともあり、アドベンチャー教育、体験学習などの分野でトレーニングを重ね、教育力向上を図ってきました。少しずつですが、この分野でも勉強を重ねています。最近では、児童養護施設の子供達のアドベンチャー体験について追跡しています。

教育能力の向上を図りながら、研究においても教育においても対象を拡大できるようにしたいものです。

## 三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

### 学術講演会

#### 広島保健福祉学会第9回学術大会



11月29日に、広島保健福祉学会第9回学術大会を三原キャンパスで開催しました。一般の方を含め、参加者は45名でした。

大会テーマを「住み慣れた地域で安心して暮らせるように」とし、特別講演は、はたのリハビリ整形外科畑野栄治院長に「在宅医療からみた親孝行のあり方」と題し講演頂きました。畑野先生の穏やかな口調のなかに、地域・在宅医療に対する熱い思いが込められており、感動的なスライドを見ながら涙ぐむ参加者がいたほどです。

パネルディスカッションは、「住み慣れた地域での生活を支えるために」と題し、中尾信二保健師には高齢者福祉行政の立場から、山原丈佳社会福祉士には介護予防事業について、それぞれの報告があり、引き続き、近藤健二理学療法士には介護老人保健施設でのリハビリテーションの実際を、最後に国西栄子介護支援専門員からケアマネージャーの立場から現状報告が行われました。介護予防分野、介護保険を実際に使用したケアの現状と問題点など貴重な報告があり、畑野先生にもコメンテーターとして参加頂き、大変有意義な討論が行われました。

誰もが「住み慣れた地域や家庭でいつまでも健やかに暮らしたい…」と願うことと思います。それを実現させるためにはどうすればいいのでしょうか。高齢者の方や障がいのある方、またその家族がいつまでも元気に暮らせるような、社会システム作りの一案が垣間見えた学術大会でした。



### 地域連携

#### 三原市県立広島大学研究開発助成事業

#### 「やささのリズムに合わせて三原健康やささ体操～地域文化との融合～」

健康の維持・増進には適度な運動が必要であることは、よく知られています。しかし、具体的にどのような運動をすればよいのかわからないという方（特に高齢者）を対象とする、やささ踊りをモチーフにした体操を制作しました。これは、やささ踊りの囃子を聞くと身体を揺らしたくなるという、みなさんの心の奥底に潜んでいる感覚を上手に呼び覚ますことで、運動が継続されることを狙ったものです。

しかし、やささ踊りは運動負荷が高い（きつい）ので、誰でも手軽にできるというわけではありません。そこで、やささ踊り振興協議会の方々の踊りの練習を撮影し、本学の実験室で動作解析すると同時に、運動強度の調節に取り組みました。そして高齢者の運動指導に携わっておられる保健師の方々にもご意見をいただき、長年の経験をも取り込んだ健康体操へと仕上げていきました。

この体操は、やささ踊りの源流につながるものではないかとの評価もいただきました。椅子に腰かけたバージョンもあり、誰でも実践できます。本学の学生と一緒に、お盆の暑い盛りですが、やささ祭本選に参加できればとの淡い期待も込めています。

#### 「平成20年度佐木島滞在型体験モニターツアー」

平成18年度から継続しているロングステイ観光事業に、平成20年度は三原市の事業として、募集人員を増加して事業としての生き残りを賭けて力を注ぎました。その方法の一つとして、三原キャンパスの2年次生保護者へのツアー参加の呼びかけを保護者会の連絡物に同封しました。その結果、3組7人の申し込みがありました。参加者の中には、1回目の参加経験者もあり再会を喜びあいました。近県の行政関係者の参加もあり、着実な成果に向かっていと感じました。

プログラムも大学の調理実習室での「タコ料理」から三原の名物お土産販売会と新たな試みも成功しました。参加者からは、良かった点として、一様に「大学での授業体験・健康講座・健康診査・学生とのふれ合い」をあげて頂きました。次年度も本事業は継続されるものと感じています。本事業を通じて、三原市に移住される方が現れることを強く願っています。

## 公開講座

### 「感覚統合理論入門講座」

6月から、6回にわたって「感覚統合理論入門講座ー子どもたちの豊かな育ちを支えるためにー」を開講しました。この講座には、教師や保育士、作業療法士、心理療法士等、多様な背景を持つ方々計41名の参加がありました。現場で多くの子ども達の事例を抱えている方々の興味や疑問は、実践的、具体的で、毎回多くの質問にお答えしながらの講座運営となりました。

内容は、感覚統合理論の成り立ちと現代社会の問題、脳とこころに関する簡単な基礎理論、行動の関係を踏まえた子どもの行動理解の方法、感覚統合の考え方を生かした運動遊びの実践、等でしたが、この中では特にビデオや実習の評判がよく、アンケートにも「このように学校で実践できる活動をもっとたくさん教えてほしい」とありました。次年度はより実践的な内容の講座を企画したいと考えます。

## シティカレッジ専門職講座

### 「コラージュ療法研修会」

三原シティカレッジ専門職講座では、毎年、「コラージュ療法研修会」(6月から隔月、計5回)を開催しています。コラージュ療法は、雑誌などの写真や絵を自由に切り抜き、台紙に再構成して貼り付ける美術の一技法を応用したものであり、日本では1980年代後半から個人心理療法の一つとして発展してきました。

研修では、コラージュ療法を初めて看護に導入された山本映子元県立広島大学教授から、コラージュ療法の理論と技法や作品の見方について、臨床経験を踏まえた興味深い講義を受けることができます。さらに毎回、後半では受講者全員がストレス解消と自己理解のためのコラージュ制作を体験し、和気あいあいと楽しく互いの作品を味わいながら、対人援助者としての学びを深めています。



### 「嚥下障害と音声言語機能」

10月22日、23日の両日、三原市芸術文化センターポポロで開催された第53回日本音声言語医学会総会・学術講演会の二日目の午後、人の脳のはたらきや、食べる仕組み、話す仕組みとその障害に関心の

ある専門職の方々を対象に、三原シティカレッジ専門職講座を開催しました。

特別講演では川人光男ATR脳情報研究所所長が「脳！ 内なる不思議の世界を読み解く」と題して、最先端の研究や実用化への努力をわかりやすく解説されました。シンポジウム「嚥下障害と音声言語機能」では、「ことば」を獲得した代わりに食べる仕組みや飲み込む仕組みが複雑になり、障害を起しやすくなったヒトに固有の問題として、加齢とともに起こりやすくなる嚥下障害と音声言語障害とにどのように対処すべきか、第一線で活躍する先生方に最新の知見を紹介していただきました。

翌10月24日には三原キャンパスでポストコングレスセミナーが開催され、多くの市民と学生が参加しました(写真)。二会場に分かれて、「嚥下障害」と「発話障害」に関して基礎から臨床まで各4名計8名の講師によるわかりやすい講義が行われ、参加者と活発な討論が交わされました。



## 研究紹介

### CAIを用いた基礎看護技術自己学習教材の開発

保健福祉学部看護学科 講師 青井 聡 美

基礎看護学教育では、看護専門職者としての最低限必要な知識・技術の習得だけでなく、実践での判断力や応用力を求められてきています。そのため授業内容や教授方法の工夫だけでなく、効果的な学習を支援する自己学習教材の開発が必要になってきています。CAI (Computer Assisted Instruction) 教材の有用性は、CAIに対する学生の評価も高いことから明らかであり、本学においても、吉田彰教授を中心に、平成13年から学内LAN (Local Area Network) を使用したCAIシステムを構築し、基礎看護技術のCAI教材の開発に取り組んでいます。教材構成は、知識編、技術編の2部構成とし、学んだ知識習得を確実にするために自動採点のできる国家試験形式の練習問題とその解答も付加しています。

今後は、外部からもアクセスできるe-Learningシステムの導入を行うことで、さらに効率的な教育システムの構築が行えると考え、導入に向けて検討しています。

# 広島キャンパス

HIROSHIMA CAMPUS

## 産学連携

### ひろしまビジネスマッチングフェアに出展

10月2日、ひろしまビジネスマッチングフェアが県立広島産業会館で開催されました。本学は8件の研究をパネルで紹介し、企業の相談等に対応しました。



出展者		タイトル
所属学部	氏名	
経営情報	栗島 浩二	マーケティング・コンサルテーション
経営情報	陳 春祥	経営情報システムライブラリー
生命環境	小西 博昭	EGF受容体下流で機能する新規因子の解析
生命環境	達家 雅明	発がん抑制因子やがん転移抑制因子の短期検索及び開発
生命環境	田井 章博	親油性安定型アスコルビン酸誘導体の開発とその応用
保健福祉	大塚 彰	前腕駆動・装飾義肢の開発～より装飾性を目指して～
保健福祉	島谷 康司	障害児・者の靴着脱に関する調査から得た知見によるビジネスマッチングの可能性
保健福祉	長谷川正哉	「製品開発」につながる「動作評価」

### 産学官くるま座交流会

第5回産学官くるま座交流会が11月21日に「ビューポートくれ」(呉市)を会場に開催されました。大学・研究機関等は本学も含め17団体、呉自社商品開発推進研究会(Kure Innovation Team 21 Century; 通称, KIT21)から30団体あまりが参加しました。参加団体の自己PRを行った後、KIT21の異業種からなるグループ活動の成果報告がなされました。セキュリティ機器の開発、カキ養殖技術の開発、携帯ビジネス事業、そして本学が支援している「QOL向上のための農園づくり」事業も報告されました。本学の「地域課題解決研究」(重点研究事業)にKIT21会員の関心が集まり、詳しい説明を求められました。



### ひろしま食育シンポジウム

12月18日、「おいしく食べて健康づくり～地域における食育活動のこれから～」と題して、加藤秀夫広島地域連携センター長による基調講演と6名のパネリストによって、県内の様々な分野の取り組みが紹介されました。県民や大学生ら約250名が参加しました。



## 公開講座

### 「表計算ソフトを使って万年カレンダーを作ろう！」

◆講師：小川仁士 ◆参加者：延べ45名

8/23	表計算ソフトを使って万年カレンダーを作ろう！
12/20	＊ カレンダー作成編 (初級)
12/21	＊ 使い勝手向上編 (中級)

### シティカレッジ「激動する東アジアを理解する」

◆会場：広島市まちづくり市民交流プラザ

◆参加者：延べ135名

11/20	東アジアの歴史的展開	原田 環
11/27	東アジアの反日と親日	上水流久彦
12/4	東アジアの軍事情勢	原 理
12/11	東アジアの文化	田 忠魁

### 「近代文学の魅力ー異界を読むー」

◆講師：坂根俊英 ◆参加者：延べ207名

10/17	宮澤賢治「注文の多い料理店」探訪
10/31	泉 鏡花「高野聖」を歩く
11/14	太宰 治「魚服記」を読む
11/28	井伏鱒二「へんろう宿」に泊まる

### 連携公開講座「竹原文化の伝統ー歴史資料の保存と活用のためにー」

◆会場：竹原市勤労青少年ホーム

◆参加者：延べ261名

11/8	広島藩主の鷹狩りと竹原吉井家	広島県立文書館 西村 晃
	吉井家文芸資料に見る和歌の学びの伝統	西本 寮子
11/29	頼山陽の手紙を読む	広島県立文書館 荒木 清二
	江戸時代の町人と能楽	樹下 文隆
12/13	竹原書院図書館の古文書から広がる世界	広島大学 石田 雅春
	パネルディスカッション「竹原文化の伝統」	

### 開催中の講座

#### 「月の文化誌」(廿日市市連携公開講座)

期間：2月14日～3月7日

会場：廿日市市役所

#### 「安芸の歴史と文化」(リカレント講座)

期間：1月20日～3月10日

会場：広島市まちづくり市民交流プラザ

## 研究紹介

### 美味しさを生む調理過程の複雑さの解明

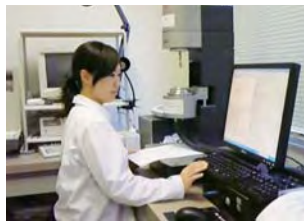
人間文化学部健康科学科 准教授 杉山 寿美

私達の研究室は、これまで調理過程でのコラーゲン分子へのプロテアーゼの作用部位解明や食品由来の脂質変動を研究してきました。現在はより複雑な系での食品成分の相互作用解明等に取り組んでいます。

具体的なテーマは、「調理過程での油脂配合量と食品中脂質の質的变化・存在様態」「新調理システム時の食品成分変動の系統的解明」「コラーゲンの構造変化と脂肪溶出量の関係」「口中調味が白飯の美味しさへ及ぼす影響」等です。また、広島ガス技術研究所と「加熱機器の違いが美味しさへ及ぼす影響」を共同研究で行っています。これらのテーマは、美味しい食事を我慢せず食べて健康を維持できることを調理過程で説明したいという思いでつながっています。

調理学研究で困難な点は、同じ試料を再現すること、時間依存性を有する試料の調製後の分析時間を一定に維持することです。これらの点をクリアした実験系を確立できれば、曖昧だった事象を理論的に裏付けられるととても楽しい研究分野です。

また、20年度からは料理の内部構造（凝集状態等）へ及ぼす食品配合等の影響を把握するため、動的粘弾性測定（微小変形による応力／周波数依存性）に着手しました。配合の僅かな違いで線形領域が異なり条件設定に悩んだり、同一試料の粒度径分布や脂質組成分析等を並行して行ったりと、慌ただしく実験を楽しんでいます。これらの研究は調理過程の複雑さを共に感じてくれる優秀な卒論生と、優秀な学生を育てる本学の教育環境に支えられています。感謝！



なめらかプリンの微小変形による粘弾性挙動の測定風景

### 情報環境システムの構築と評価に関する研究

経営情報学部経営情報学科 准教授 小川 仁士

近年のICT（情報通信技術）関連機器の発展は目覚しく、特に携帯電話やパソコンなどの情報通信端末は、その通信基盤であるインターネットの普及ともあいまって高度情報化社会の創出に必要な不可欠なアイテムとなってきています。一方、ICT技術の有効利用のためには、セキュリティの問題、デジタルデバイドの問題、さらには電磁環境問題など複雑多様な問題複合体を相手にしなければなりません。そして、その解決のためには物理・生理・心理・倫理など異種分野を包含する価値観、および、これに基づく方法論の導入が不可欠であるように思われます。

すなわち、人間の生活や仕事をアシストする目的で構築される情報システムは、人間中心とまではいかないまでも周囲の環境と調和して、その存在を意識させることのない（ユビキタスな）情報環境システムとして我々の生活の中で活用されるべきであると考えています。この目的を達成するためには、要素技術に関する研究ももちろん重要な課題ですが、実践的なシステム構築と評価に基づくノウハウの蓄積、そして新たなシステム構築へのフィードバック、さらにはノウハウを身につけた人材の育成という多面的なアプローチに依る必要があります。

本研究では、実システムの設計・構築に足場を置き、システムの果たすべき役割と実装すべき機能の整合性と一貫性に関する検証、ヒューマン-マシンインタフェースの最適化に関する検証、システムが及ぼす環境影響に関する検証を柱に、情報環境システムのあるべき姿を考究しています。また、近年ではeラーニングシステムを援用した技術系人材（情報処理技術者）の育成にも力を入れています。

### 「子どもと楽しむ4つの世界」

パート2・3・4を次のとおり開催し、親子を中心とした延べ219名の参加がありました。

8/25	伸ちゃんのさんりんしゃ	小玉 好行, 林 昭弘, 伊藤 哲次
12/13	まど・みちおの世界	小玉 好行, 北垣 旬子, 迫田 倫子, 國元 隆生, 三島 良子, 永井 恭子, クワイヤ・アイリス (賛助出演)
12/13・20	体を動かす楽しさいっぱい	中瀬古 哲, 奥本 秀明, 溝部 牧子

## 県立広島大学重点研究事業（地域課題解決研究）の紹介

重点研究事業（地域課題解決研究）は、広島県内における地域課題の解決に向けた研究課題を地方自治体、公共的団体、NPO、企業等から広く公募し行っているものです。その事業例を紹介します。

### 「地域総合研究の一環としての竹原・吉井家文書の調査及び基礎的研究」公開講座の実施

人間文化学部国際文化学科 教授 西本 察子

竹原市が市制50周年を迎えた11月から、三年に及んだ調査・研究の報告を兼ねて、公開講座「竹原文化の伝統—歴史資料の保存と活用のために—」を竹原市勤労青少年ホームで開催しました。歴史・文学の4講座と講演及びパネルディスカッションで構成した3回の講座には250名を超える参加があり、市民の関心の高さが窺われました。



### 「過疎地域におけるメンタルヘルスに関する調査とストレスバイオマーカー開発・有用性の研究」

生命環境学部生命科学科 教授 龍治 英

精神的ストレスの蓄積が簡単な血液検査から診断できるようになれば、メンタルヘルスの維持に大きな力となります。この手法は抗ストレス機能を持った新規薬剤・食品の開発においても有用です。私達はマウスにおいて、数種類の血液蛋白質がストレスの指標になることを見出し、こうした方面への幅広い応用展開を試みています。また昨年度は近隣地域におけるメンタルヘルスの実態調査を終え、今後は前述のストレス指標蛋白質とメンタルヘルスとの関係を検証することを目指しています。

### 「高齢化時代における住民参画による健康な地域づくりシステムの形成に関する研究」

保健福祉学部看護学科 講師 水馬 朋子

子どもから高齢者まで住民一人ひとりが参画したまちづくりを行うためには、住民と行政が協働することが求められています。自分たちが住むまちをどんなまちにしたいのか、住民と行政職員が知恵を出し合う話し合いを行いました。この結果、住民が主体的に参画する条件として、①まちづくりの方向性を統一する、②参加者同士が対等に話し合う、③行政の各課が連携を強めることなどが明らかになりました。



### 編集後記

センター報第8号をお届けします。協定自治体との意見交換会の報告記事をはじめ、産学連携、公開講座、シテカレッジなどの事業を紹介しています。

発足から3年半を経て、地域連携センター事業も多角化してきましたが、今後もさらに積極的に事業を展開し、地域の皆様のご期待に応えられるよう運営していきたいと思っております。今後もご支援とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。(T)

### 編集発行

県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号  
電話(082)251-9534/E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

### 各キャンパス問合せ先

県立広島大学庄原地域連携センター

〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地  
電話(0824)74-1704/E-mail:gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学三原地域連携センター [本号編集担当]

〒723-0053 広島県三原市学園町1番1号  
電話(0848)60-1200/E-mail:mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp